

〔表4〕 館外個人貸出利用者数

区 分	人 員	構 成 比
勤 め 人	9,139	36.5%
自 家 営 業	1,329	5.3
主 婦	2,872	11.5
無 職	9,159	36.7
学 生・生 徒	2,509	10.0
小 計	25,008	100.0
児 童	28,526	
合 計	53,534	

〔表5〕 館外個人貸出利用図書冊数

分 類 別	冊 数	構 成 比
総 記	1,993	4.0%
哲 学 宗 教	2,615	5.3
歴 史 地 理	4,689	9.3
社 会 科 学	8,720	17.4
自 然 科 学	4,714	9.4
工 学 工 業	4,027	8.0
産 業	2,240	4.5
芸 術	6,394	12.7
語 学	716	1.4
文 学	10,517	21.0
郷 土	2,420	4.8
雑 誌	1,112	2.2
小 計	50,157	100.0
児 童	88,947	
合 計	139,104	

〔表6〕 入館者数・登録者数

( )内は児童数

開 館 日 数	入 館 者 数	登 録 者 数
日 280	人 230,400	人 7,130 (6,788)

## 4 郷 土 資 料

県内外の図書館、資料館、郷土史家等からの電話や文書による調査依頼が多いが、「県行政資料コーナー」が新設されたことにより、県・市町村発行の行政資料の利用もふえてきている。対面朗読室、視聴覚資料室も件数は少ないながら着実に利用されている。

## 5 逐 次 刊 行 物

調査相談の件数は、横ばいの傾向だが、内容は高度化した。新聞記事に関する調査研究を筆頭に、雑誌論文の調査、特許関係の質問等幅広く寄せられ、当館では対応しきれないものは、国立国会図書館等関係機関との相互協力により処理した。

自館資料を充実させることはもちろん、図書館のネットワークの整備に努めなければならないと思われる。

## 6 児 童 奉 仕

### (1) 児 童 室

子どもが豊かな感性を養えるよう、様々なジャンルの図書を収集し、閲覧、貸出を行った。

利用状況では、利用者層が子供から大人まで幅広い年齢層に広がり、その利用地域も広範囲にわたった。また、休日等の家族連れの利用が多くなった。

本年度は、窓口業務が電算化され、図書の貸出業務の円滑化はもちろん、書名・著者名等の検索、リクエストサービス等利用者の多様な要求に応えられるようになった。

また、これによって詳細な統計がとれるようになり、図書の利用分析、利用者動向の把握等ができるようになった。

### (2) 児 童 図 書 研 究 室

調査相談コーナーとして、各図書館、読書施設、児童図書の研究者等、カウンターに訪れる利用者をはじめ、文書及び電話等による調査依頼など、相談件数も徐々に増えつつある。

本年度は、調査依頼に対する業務サービスの向上を図るため、成人向け資料と研究素材としての児童向け図書も電算化を行った。

## 7 複 写 サービス

申込件数は新聞が最も多く、次いで郷土資料、雑誌論文等の順である。新聞の複写については、マイクロフィルム化済みの地元紙は、マイクロリータープリンターで、原紙を使用の場合は、複写機で行っているが、原紙の破損が甚しく、マイクロフィルム化を急いでいる。

〔表7〕 複写利用状況

利 用 件 数	7,283
利 用 枚 数	82,042

## 8 展 示

エントランス・ホールの展示コーナーで、本年度は次の展示を行った。

### (1) 福島県名家遺墨展 (昭和61年4月11日～6月1日)

当館が所蔵する安積良斉、河野広中、新井石禅、山内雪等の書(掛軸)を展示。

### (2) 近代教科書の移りかわり展 (昭和61年6月3日～7月6日)